

国立病院機構熊本医療センター

No.241



くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519

医学生のための 臨床研修医説明会が開催されました



去る6月4日(日曜日)に当院で「医学生のための臨床研修医説明会」が開催され、52名という多くの医学生に御参加いただきました。

2階の大ホールで、まず高橋院長の挨拶のあと、大塚副院長から当院の概要説明、私から研修プログラム説明、研修医2年次の矢野先生から実際の臨床研修についての説明がありました。

その後6つの班に分かれて、医局、図書室、救急外来、病棟の見学と、当院で保有している高機能型人形型シミュレーターや、超音波・腹腔鏡・内視鏡・血管造影などのバーチャルシミュレーターに触れていただきました。

最後に医学生、研修医、各診療科の指導医代表に参加していただき、当院レストラン調理の軽食をいただ

きながら和気藹々と意見交換会を行いました。そして各診療科指導医の先生方から、診療内容・研修内容についての紹介をいただきました。

医学生は非常に積極的に研修医や指導医と話をし、熱心に質問をして話を聞いていたのがとても印象的でした。医学生(特に6年生)はこれからマッチングや卒業試験、国家試験と大変なことが続きますが、頑張ってください、是非当院で初期臨床研修を受けていただきたいと思います。

休日にも関わらず、後進のために参加していただいた多くの研修医・指導医の先生方には大変感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

(教育研修部長 富田正郎)

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



「医科歯科連携を意識して」

おにつか歯科医院

院長 鬼塚 啓史



熊本市西区横手で開業し29年になります。私は昭和54年に九州歯科大学卒業と同時に口腔外科へ入局。6年間の医局時代、臨床および顎関節症に関する基礎的研究に携わりました。ずいぶん昔のことになりました。

歯科開業医にとりまして口腔外科疾患は自院での対応に限界があり、困った時にお願いできる医療センター口腔外科の存在は大変心強く、これまで数多くの患者さんをご紹介させていただき、その都度丁

寧な対応をして頂き、いつも感謝させていただくばかりです。部長の中島先生とは九歯大第一口腔外科の同門で、さらに硬式野球部のOB同志という御縁もあり、より身近に感じられありがたく思っております。

数年前から「医科歯科連携」がクローズアップされるようになり、中島先生はその先頭を走って来られましたが最近では、我々連携歯科医にも周術期口腔ケアのご依頼をいただくことが増えてまいりました。時代の要請に応えるべく歯周病を中心とした口腔感染症の管理にこれまで以上に努めなければと意を新たにしているところです。

これから超高齢化社会を迎えるにあたり、認知症予防が大きな課題となっていますが、その手段の一つとして自分の歯でよく噛める状態を維持することが大変重要であると周知されてきています。若い世代の患者さんには定期的なメンテナンスとホームケアにより一生自分の歯を残せるように、不幸にして歯を失くした方にはこれ以上歯を失くさないで済むように、これからも努力していこうと思っています。最後に、厳しい環境のなか医療に対する真摯な姿勢とそれを支えるチームワークにより昼夜を問わず地域医療をしっかりと支えていただいている病院スタッフの皆様にあらためて敬意と感謝を申し上げます。

熊本大学大学院生命科学研究部 循環器内科学 辻田賢一教授の特別公演が行われました

熊本大学大学院生命科学研究部 循環器内科学 辻田賢一教授は、第二代小川久雄前教授の後任として、第三代教授に就任されました。

循環器内科学講座・不整脈先端医療寄附講座・心血管治療先端医療寄附講座・循環器予防医学先端医療寄附講座・心不全先進医療共同研究講座のスタッフが協力して診療を行なっています。まだ就任して8ヶ月あまりですが、熊本県下唯一の特定機能病院として、高度先進医療の充実を行なっており、高難易度のPCI（経皮的冠動脈形成術）、カテーテルアブレーション（不整脈治療）、重症心不全に対するデバイス治療、さらに、TAVI（経カテーテル大動脈置換術）、僧帽弁閉鎖不全症に対するMitral Clipなどの治療も積極的に取り入れ、熊本の循環器診療の最後の砦としての責務を果たしています。

また、熊本大学心臓血管外科（福井寿啓教授）と緊密に連携し“ハートチーム”を形成し、重症疾患を内科外科の垣根を越えて、救急医療においても、



特別講演質疑応答の様子

大学病院において24時間365日受け入れる体制を築きあげられました。

研究面におきましても、泰江弘文教授、小川久雄教授の築いた体制を引き継ぎ、継続されています。

今回の講演は、今後の循環器内科の方向性を示す講演でした。（循環器内科部長 藤本和輝）

熊本県知事を訪問しました

平成29年4月の高橋院長の就任挨拶として、5月22日に蒲島郁夫熊本県知事を訪問しました。大塚副院長、渡邊統括診療部長、佐伯看護部長とともに、知事室に案内して頂きました。高橋院長から新体制メンバーの紹介、当院の診療概要、熊本県下での当院の役割などを説明されました。

蒲島県知事からは、熊本地震の際の当院の被害状況などをお聞きになり、また、地震の際の当院の救急の受け入れ、並びに日頃の救急医療等について、感謝の意を頂きました。一方で、知事ご自身が、以前当院の人間ドックを受診されたことなどをお話され、短い時間でしたが知事のお人柄を感じさせる穏やかな時間が流れました。私自身、知事と直接お話しができる機会など生涯ないと思っていましたので、貴重な経験となりました。



蒲島県知事と記念撮影

今後、熊本県をはじめ関係市町村との医療・福祉に寄与し、県民から信頼される医療機関として更なる努力を傾注したいと思います。知事公室、健康福祉部におかれましては、知事訪問の機会を頂き感謝を申し上げます。

(事務部長兼院長補佐 内田正秋)

がんサバイバーの方たちを応援しよう！

5月13日、14日に、熊本では7回目となる「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2017熊本」が熊本市の白川公園でおこなわれました。当院もこのイベントに二の丸がんサロン*の皆さんと一緒にチーム参加しました。総勢41名のボランティア職員と附属看護学校の学生でタスキをリレーしたり、ブースではがんの診断・治療・治療後の暮らし全般を支援するため

の情報を発信しました。更に今年は、二の丸がんサロンの皆さんが“看護学生さんと語ろう会”を企画されました。参加して下さったサバイバーの方からは「学生さんに自分の体験したことや思いを伝えることができよかった」という声が聞かれました。学生からは「そのとき、どんな思いだったのかを教えてくださいましたことを活かしたい」など、臨場感のある生の声を聴かせて頂いたことで看護への想いを強くする企画となりました。

最後になりましたが、ご協力頂きました事務部、ボランティアの方々に深く感謝いたします。

(がん看護専門看護師 方尾志津)

がんサロンとは；がん患者さんやそのご家族などが集まり交流や情報交換をする集いの場



参加者で記念撮影

地域医療連携室直通電話をご利用下さい

先生方には日頃より患者様の御紹介を頂きありがとうございます。

この度、代表電話からの地域医療連携室へのお電話が繋がりにくいとのことご指摘を受け、直通電話を設置致しました。

この直通電話は、関係医療機関の皆様から頂くお電話のみをお受け致します。患者様からの直接のご相談は、これまでどおり代表電話を通じて承る予定です。

医療機関の皆様のための直通電話になります。ホームページ等では公表いたしておりませんので、ご了承下さい。今後ともよろしくお願い申し上げます。

地域医療連携室長 渡邊健次郎

地域医療連携室直通電話 **096-353-6693** 月～金(祝日を除く)AM8:30～PM17:00

縫合実習が行われました

去る5月15日(月)に主に研修医を対象とし、ダミーの縫合練習キットを使用した縫合実習を行いました。参加人数が多いため、午後1時から午後3時までは当院の1年次の研修医を対象に、午後3時から5時までは院外の研修医や希望者を対象として、2部に分かれ約35名が実習を行いました。

院外からは研修協力施設である公立玉名中央病院から8名、荒尾市民病院から5名に御参加いただきました。また当院でクリニカル・クラークシップ中の熊大医学生も参加しました。糸結びのキットや縫合実習のキットを用い、糸結びの実習や表皮縫合、



縫合実習の様子

埋没縫合等を実習しました。有志の2年次諸君には、実習指導者として参加してもらいましたが、1年間の成長ぶりを頼もしく思いました。

ご多忙中にもかかわらず、形成外科の大島先生に縫合手技について2度にわたってミニレクチャーをして頂きました。また外科の蔵重先生にも御指導いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。また、毎回、実習に必要な全ての機材を準備して頂いたコヴィディエンジャパン株式会社およびスタッフの方々にも深謝します。この実習の機会が縫合に対する理解の一助となれば幸いです。

(教育研修部長 富田正郎)



縫合実習キットを使用しての実習の様子

職員合同研修が行われました

平成29年6月9日(金)10日(土)に、医師24名、看護師39名、看護学校9名、コメディカル12名、事務等15名の合計99名が参加して、平成29年度職員合同研修会が阿蘇熊本空港ホテル・エミナースで開催されました。1日目は、当国立病院機構の古都賢一副理事長による「国立病院機構の将来展望」と題する講演が行われました。冒頭に昨年発生した熊本地震に触れられ、その対応に関して当院の職員に感謝の言葉を述べられました。内容に関しては、団塊の



参加者で記念撮影

世代が75歳以上に達する「2025年問題」にどう対応するか、国立病院機構の役割等について学ぶことができました。また、その後は意見交換会が行われ、参加者の親睦を深めました。2日目は、7班にわかれ各々のテーマに関する発表データを作成し、午後からは各班によるプレゼン大会が行われました。研修会を通して多職種の連携が深まりました。

(庶務班長 毛利安則)



古都賢一副理事長の講演

工事期間中における行幸坂通行計画(緊急車両限定)について

熊本市から行幸坂の通行許可(緊急車両限定)があり、平成29年6月12日(月)より、運用ができるよう準備が整いましたのでご連絡いたします。

行幸坂の通行に際しては、いくつかルール(①～⑤)がありますのでご確認いただくようお願いいたします。なお、駐車場北側出口付近が混雑していない場合は、通常どおりのルートで、出庫していただいても結構です。工事期間中は大変ご迷惑をおかけいたしますが、今後ともご協力のほど宜しくお願いいたします。

- (緊急車両通行ルール) 通行期間 平成29年6月1日～平成30年11月30日
- ①全日8:30～17:00 ②警備員配置図A、B ③上り下り通行可。
- ④救急車両は救急車、当院転院用病院車、日赤血液センター車両警察車両等とする。
- ⑤行幸坂から法華坂(当院内の入出時まで)の間についてサイレンを鳴らすこと。



病院増改修整備工事の進捗状況

平成29年4月より解体工事に備え、一方通行等の規制を行っています。5月より始まった既存棟(研修棟)の内部解体がほぼ完了し、平成29年6月から、本格的に研修棟外部の解体が行われることとなります。研修棟の外部解体と並行して、旧食堂・売店棟の内部解体を行い、研修棟の外部解体完了後に旧食堂・売店棟外部の解体に移行する予定です。

解体を行っている現場は、坂の中腹にあり、道路に面した工事が難しい場所なので、これから解体が終了するまでの期間は、慎重な作業が続くこととなりますが、安全を最優先に作業計画を行い、工事を進めてまいります。今後ともご理解とご協力を宜しくお願い致します。



(業務班長 朝重 久緒)

<今後のスケジュール予定>

- 研修棟、売店食堂棟解体: Step 2 平成29年4月～平成29年8月
- 増築棟新築工事: Step 3 平成29年9月～平成30年11月
- 外来棟改修工事: Step 4 平成30年12月～平成31年8月

(※スケジュールは、今後の工事進捗状況によって変更する場合があります。)



最近のトピックス

陳旧性顔面神経麻痺の形成術



形成外科部長

大島 秀男

顔面神経は顔の表情をつくる筋肉を動かす神経で、何らかの原因で障害されると、顔貌に大きな変形が出てしまいます。顔面神経麻痺の代表的な症状は、眉毛・まぶたが垂れ下がる、眼を閉じることができずドライアイになる、口唇や鼻が麻痺の反対側にひっぱられゆがむ、などです。顔面神経麻痺の原因はウィルス感染が原因と考えられるベル麻痺や耳下腺腫瘍や聴神経腫瘍によるもの、外傷によるものがあります。顔面神経麻痺は、障害される部位や原因によって、症状や程度、経過が異なりますが障害されても薬物治療などで回復してくる場合もあります。

麻痺発症後完全には回復せず、長期間経過した陳旧性顔面神経麻痺の場合には、残存する症状に応じた形成術を行います。

「眉毛・まぶたが垂れ下がる」

額にしわをつくる筋肉の麻痺により眉毛、まぶたが垂れ下がってきます。時に視野の妨げにもなるため眼瞼下垂と間違えられることがあります。眉毛の上の皮膚を切除し、眉毛を反対側と同じぐらい上げた状態で額の骨膜に固定します。必要に応じてまぶたの弛緩した皮膚も切除します。

「眼を閉じることができずドライアイになる」

通常まぶたは内側の赤い結膜が眼球に接して、表面を涙で湿潤に保ち眼球を保護しています。眼の周囲の

筋肉が麻痺すると眼を閉じられなくなるとともに、下まぶたが緩んで眼球が乾燥し痛みをとまなう（ドライアイ）ことがあります。側頭筋移行術は、噛む時に使う側頭筋をまぶたに移植する手術です。耳よりも上方の髪の毛の中を切開して筋肉の一部を短冊状に引っ張り出し、それにつなげて筋膜を上まぶたと下まぶたの中に通します。これにより、噛んだ時に筋肉が収縮し、まぶたも閉じられるようになります。

「口唇や鼻が麻痺の反対側にひっぱられゆがむ」

口の周りや頬の筋肉が麻痺すると顔が大きく麻痺のない側にひっぱられて歪んでしまいます。麻痺が強い場合には、顔を動かしていない時でも顔の非対称が強くなります。筋膜移植による再建では、主に大腿部の筋膜を用いて、垂れ下がった口角を吊り上げることでより安静時の左右差が改善されます。また側頭筋移行術や遊離筋肉移植では動きのある再建が可能で、笑った時の左右差も軽減します。術後しばらくしてから、つり上げの程度や動きを調整するなどの微調整が必要になる場合があります。

上述のように個々の患者さんの症状に合わせた治療法を提案致しますので、お気軽にご相談下さい。



側頭筋移行による動的再建術
左：手術前 右：手術後

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ114回

弾性ストッキング装着患者のセルフケア能力向上への取り組み

6 西病棟看護師 植野彩華

【目的】

弾性ストッキング着用患者に継続的な看護介入を行い、弾性ストッキングの着脱に対する患者の理解度とセルフケア能力の変化について明らかにしました。

【研究方法】

1. 対象：術後離床後、患者自身でストッキングの着脱を行う患者
2. 研究期間：平成27年12月～平成28年1月
3. 研究方法
 - 1) 弾性ストッキング装着方法チェックリスト（装着方法4項目、装着後の状態4項目）を用いて術前日と術後3・5・7日目に患者の弾性ストッキング装着時の行動を観察し、確実に装着できる実施率と実施することを困難にしている理由をインタビューしました。
 - 2) 確実に装着できる実施率を経時的に比較し、困難にしている理由は同義性に従って質的に分析しました。

【結果】

- 1) 対象患者は女性10名、平均年齢58歳、チェック項目の欠値はありませんでした。
- 2) 装着方法（4項目）は、術前の「裏返す」以外は実施率90%でしたが、術後3日目の実施率は3項目が低下していました。術後5・7日目になると4項目全て80%以上できていました。全症例において皮膚トラブルの発生は見られませんでした。（図1）
- 3) 実施することを困難にしている理由は5・7日目に比べると3日目が一番多かったです。5日目以降は装着した者しかわからない具体的な発言がありました。

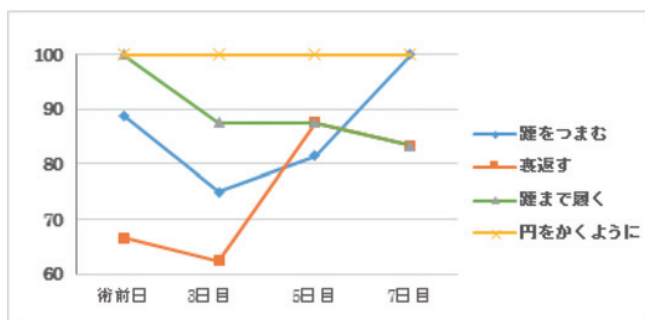


図1 患者10名における弾性ストッキング装着方法の確実性

した。（表1）

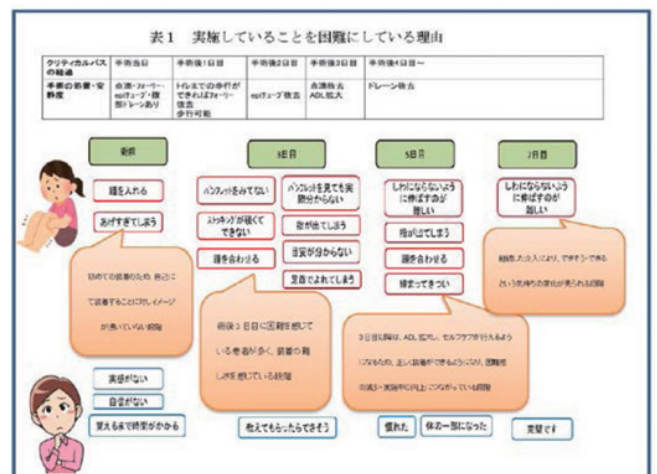
【考察】

- 1) 術後3日目に実施率が全体的に低下していましたが、継続的な指導を行うことでセルフケア能力が向上しました。そのため、看護師の術後3日目までの介入が有効であると考えました。
- 2) 弾性ストッキング装着に対する困難感は3日目に1番多く聞かれていたことから、術後3日目は創部痛やルート類などの行動制限や不安があり、看護師の介入が必要な状況であると考えました。しかし3日目以降は日常生活動作が拡大しセルフケアが行えるようになるため正しく装着できるようになり、困難感の減少や実施率の向上に繋がっていると考えました。継続した介入と日を追うごとの装着の慣れにより、術後5・7日目では装着に対し具体的な発言も聞かれ装着への抵抗がなくなったと考えます。

【結論】

1. 患者自身で弾性ストッキングを確実に装着し観察のポイントを習得するために術後も継続的な介入が必要になります。
2. 装着に対する困難感頻りに訪室し継続した指導を行ったことで減少し、自己で装着することの自信に繋がりました。
3. 看護師の術後3日目までの介入が弾性ストッキングのセルフケア能力向上に対して有効であるという結果でした。

（表1）



研修医レポート

臨床研修医

いけ べ そう
池邊 壮



こんにちは。研修医一年目の池邊壮と申します。熊本大学を卒業し、今年の四月から熊本医療センターで研修をさせていただいております。研修が始まってから二ヶ月から経ちましたが、未だに不慣れなことが多く、先輩の先生方や同期の友人達に迷惑をかけつつも、毎日精一杯学ばせていただいております。

研修については外科から始めさせていただき、六月の頭から麻酔科でお世話になっております。環境が変わり、新しく覚えなければならないことがたくさん増えましたが、少しずつ慣れてきたように感じています。

最初に回らせていただいた外科では、患者さんとの接し方や診察するときの心構えなど、医師として基本的な、けれどもとても大切なことを学ばせていただき

ました。患者さんを苦しめているものは何か、治療する上での問題点は何か、そういった広い視点で包括的に患者さんのQOLをマネジメントすることが医師の仕事なのだ学びました。また、外科的手技や解剖の知識も学ばせていただきました。どこに何が繋がっているかといった機械的な知識だけではなく、臓器と臓器の重なり方や距離感、膜や空間の広がり方といった生きた知識を身に着けることができたように思います。外科で得た解剖の知識は、これから医師として働く上で大きな武器になると思っています。

次に回らせていただいている麻酔科では、鎮静薬の種類や用法といった知識だけでなく、ルート確保や気管挿管といった手技を経験させていただいております。麻酔科だけでなく、全て診療科で必要となりうる知識や手技なので、この機会にしっかりと身に着けて、自分のものにしたいと思っています。

慌ただしい毎日ではありますが、先輩の先生方や同期の研修医に支えられながら、充実した日々を過ごさせていただいております。これからもどうぞよろしく願いいたします。

臨床研修医

あ だ ち ゆ う き
足立 優樹



こんにちは。研修医1年目の足立優樹と申します。熊本大学医学部を卒業し、4月から熊本医療センターで初期臨床研修させて頂いております。研修開始から2か月がたちますが、まだ問診やその他の業務についてわからないことが多く、スタッフの皆さんに迷惑をかけながら、精一杯日々を送っています。

私は、4月に糖尿病内分泌科から研修をスタート致しました。正直、最初は電子カルテの使い方、薬の処方、検査のオーダーなどを覚えることで精一杯でした。何もわからない自分に、指導医の先輩方が熱心に指導

して下さり、何とか一通りこなせるようになりました。医師になることは、医学の知識を付けること、手技を身に着けることだけではないのだなと痛感した4月でした。診療の面では、基本的な血糖コントロールの考えや実際の薬物療法、食事療法、運動療法だけでなく、患者教育についても学ばせて頂きました。

次にローテートした外科では、内科では経験できなかった多くの手技についても行わせていただきました。気胸患者に対してトロッカーを挿入し縫合、糸結びなど、毎日のように行う機会がありました。

救急外来の当直、研修科のオンコールと忙しい日々ではありますが、周りの先生方から熱心なご指導を頂き、充実した研修を送らせていただいております。この先まだまだご迷惑おかけすると思いますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

研修のご案内

第3回 診断と治療－最新の基礎公開講座－

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成29年7月8日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長: ひらきクリニック 副院長

大柿 悟 先生

演題: 「不明熱」

1. 小児領域の不明熱

国立病院機構熊本医療センター小児科医長

水上智之

2. 当院で経験した不明熱の症例

熊本市医師会 熊本地域医療センター小児科部長

柳井雅明 先生

3. 成人領域の不明熱について

国立病院機構熊本医療センター総合診療科医長

辻 隆宏

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通) FAX 096-352-5025(直通)

第221回 月曜会(無料)

(内科症例検討会)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成29年7月10日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 内科症例検討 診療で遭遇した興味ある症例の検討を行います。

「第1症例 頭部MRIにて多発病巣を呈した69歳男性」

国立病院機構熊本医療センター神経内科

山川詩織

「第2症例 食道アカラシアに併存した表在型食道がんの1例」

国立病院機構熊本医療センター消化器内科

後藤知由

2. ミニレクチャー「リンパ節が腫れない悪性リンパ腫」

国立病院機構熊本医療センター血液内科

三井士和

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター教育研修部長 富田 正郎 TEL: 096-353-6501 (代表) FAX: 096-325-2519

第91回 特別講演(無料)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成29年7月19日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長: 国立病院機構熊本医療センター副院長

大塚忠弘

「泌尿器専門医以外にも役立つ改訂前立腺癌ガイドラインのポイント」

熊本大学大学院生命科学部泌尿器科学教授

神波大己 先生

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター TEL 096-353-6501 (代表) 096-353-3515 (直通)

第188回 三木会(無料)

(糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

[日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成29年7月20日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「糖尿病の注意すべき合併症～無症候性心筋梗塞について」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

猿渡万里子

2. 「糖尿病薬物療法のトレンド」

くまもと成仁病院 院長

上原昌哉 先生

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 西川 武志 TEL 096-353-6501 (代表) 内線5441

第127回 総合症例検討会(無料)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成29年7月26日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ『40代男性の敗血症性ショック』

(40代 男性)

臨床担当) 国立病院機構熊本医療センター救急科医長

原田正公

病理担当) 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部病理研究室長

村山寿彦

「生来健康であったが、全身倦怠感と四肢のしびれで救急搬送となった」

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)

2017年 研修日程表 7月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

7月	研修センターホール	研修室
1日(土)	13:00~15:30 第144回 公開看護セミナー 「コミュニケーション上の危険予知力を高める」 有限会社コミュニケーションデザイン研究所 代表取締役 渡邊 直子 先生	
2日(日)		
3日(月)		
4日(火)		
5日(水)		
6日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「院内暴力と対処法」 国立病院機構熊本医療センター院内警備統括担当者 西村 一弥	
7日(金)		
8日(土)	9:30~11:30 第277回 熊本県滅菌消毒法講座 「洗浄に関する最近の話題~滅菌技師/士を目指す方々へ~」 15:00~17:30 第3回 診断と治療-最新の基礎公開講座- 「不明熱」 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 座長 ひらきクリニック 副院長 大柿 悟 先生 1. 小児領域の不明熱 国立病院機構熊本医療センター小児科医長 水上 智之 2. 当院で経験した不明熱の症例 熊本市医師会 熊本地域医療センター小児科部長 柳井 雅明 先生 3. 成人領域の不明熱について 国立病院機構熊本医療センター総合診療科医長 辻 隆宏	
9日(日)		
10日(月)		19:00~20:30 第221回 月曜会 (内科症例検討会) (研2) [日本医師会生涯教育講座1.5単位]
11日(火)		
12日(水)	18:00~19:30 第105回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルバス研究会 (公開)	
13日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「クレーム対応」 国立病院機構熊本医療センター医事専門職 川野 智史 18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	
14日(金)		
15日(土)		
16日(日)	第15回 熊本PEECコース	
17日(月)		
18日(火)	19:30~21:00 第50回熊本摂食・嚥下リハビリテーション研究会 「PEG ~これだけは知っておきたい基礎知識」 イオンタウン田崎総合診療クリニック 院長 城本 和明 先生 「PEGと口腔ケアを繋ぐもの ~そのココロとエビデンス」 熊本リハビリテーション病院歯科衛生士 白石 愛 先生 「PEGの適応に苦慮した摂食嚥下障害の2症例」 宇土中央クリニック看護師 浦 陽子 先生	
19日(水)	19:00~20:30 第91回 特別講演 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 「泌尿器専門医以外にも役立つ改訂前立腺癌ガイドラインのポイント」 熊本大学大学院生命科学研究部泌尿器科学教授 神波 大己 先生	★今月の注目 事前の参加のお申し込みは必要 ありませんので、ご自由にお越 しください。
20日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「防災の心構え」 国立病院機構熊本医療センター救急医療支援担当者 後藤 達広 14:00~15:00 第52回 市民公開講座 「口腔細菌と全身のふかへい関係」 国立病院機構熊本医療センター歯科口腔外科医師 谷口 広祐	19:00~20:45 第188回 三木会 (研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]
21日(金)		
22日(土)	9:00~17:00 第97回 救急蘇生法講座 ~二の丸ICLSコース~ 講師 国立病院機構熊本医療センター救命救急センター長 原田 正公 ほか	
23日(日)		
24日(月)		
25日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会 (研1)
26日(水)	19:00~20:30 第127回 総合症例検討会 (CPC) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]	
27日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「災害医療について」 国立病院機構熊本医療センター救急科医長 北田 真己	
28日(金)		
29日(土)		
30日(日)		
31日(月)		

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ (<http://www.nho-kumamoto.jp/>) をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501 (代) 内線2630 096-353-3515 (直通)